

＜過去1週間の動き＞

(9月16日～9月22日)

USD/ZAR: 14.3800～14.8975
ZAR/JPY: 7.34～7.60 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、下押し(続落)先行から、20日以降、底打ち、横ばいへと推移した。ランド下押しの要因は、米8月小売売上高上振れ(16日)などを受けたドル全面高、金、プラチナなど貴金属(南ア主要輸出産品)の下押し、米長期金利上昇に連れた南ア長期金利の上昇(南ア国債価格は下落)、南ア株価指数下押しなど、枚挙に暇がなかった。週明け20日には、中国大手不動産会社の債務不履行懸念が広がり、株価は世界的に大幅続落となったが、翌21日以降、南アを含め株価全般は底打ち反発、貴金属も反転上昇した。不思議だったのは、20日の時点でランドは明確に下げ止まっており、株価全般の反発や、ドルの頭打ち、貴金属価格の反発などに明確に先行していたこと。その背景を敢えて探すなら、同日、南ア歳入庁などから、同国財政に関する前向きな報告が相次いだ点を挙げることはできただろう。南ア歳入庁からは、8月末までの時点で、税収は予算対比+9.7%(前年同期比+13.5%)、鉱業からの法人税収や付加価値税収の貢献が大きいとの報告があった。鉱業からの税収増は、貴金属/産業金属の価格上昇と、輸出の好調を反映したものと考えられたし、付加価値税収の増加は、(前年対比ではあるものの)消費の底堅さを反映したものを受け止められただろう。加えて、南ア財務省予算局からは、「金融危機に前後した失敗を繰り返さない」との方針が伝えられた。その意味するところは、一時的要因による税収増に乗じて、恒久的な支出を増加させないということだった。その後のランド横ばいは、米連銀公開市場委員会を前にしたドルの頭打ちや、南ア国債の下げ止まりに合わせた反応と考えられたが、貴金属や南ア株価の明確な反発や南ア国債入札の成功(21日)と比較すると、ランドが横ばいにとどまった事実は物足りない値動きのようにも感じられた。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/22	8:00	CPI(前年比)	8月	+4.9%	+4.9%	+4.6%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう1週間の見通し＞

(9月23日～9月29日)

USD/ZAR: 14.650～15100
ZAR/JPY: 7.30～7.50

向こう1週間の南ア・ランド相場は、軟調を予想。現状、ランドに方向感を与えそうな南ア固有の要因はほぼ見当たらない。足下貿易収支、経常収支の継続的な堅調は、南ア交易条件の改善(ランド安や貴金属/産業金属などの価格上昇)を反映したものと考えられるし、上述税収増もその延長に位置づけることができるはず。これらは、年初来、観察され続けてきたことで、材料として新味に欠けるし、ここまでの長期化には意外感もあるものの、いずれその影響は弱まるものと見込まれている(そういう意味では、むしろ、将来的なランド安要因)。22日発表された南ア8月CPIは、「予想通りの上振れ」という結果にとどまり(コアCPIは小幅ながら上振れしたものの)、+3～6%という南ア準備銀物価誘導目標に対する上振れが、早晩懸念されるような水準にない。この点も、敢えて言うなら、下振れの方がむしろ警戒される状況かもしれない。南ア準備銀クガニャホ総裁が9月8日に示唆した「物価誘導目標引き下げ」の可能性は、潜在的な(金融引締めを通じた)ランド押し上げ要因と読めるものの、これも、早晩具体化する話とは思えない。ランド軟調を見込むのは、南ア側に特段の要因が見当たらない中、ドル堅調とランドを含む新興市場通貨全般の軟調が当面の基調になるものと見込むから。22日の米連銀公開市場委員会は、予想通り、FF金利誘導目標を据え置いたものの、年内の資産購入規模縮小着手(テーパリング開始)、22年前半のテーパリング終了、22年中の利上げ開始(リフトオフ)に向けて、ほぼ、道筋をつけた格好になった。市場参加者の過半が見込んだと思われる道筋を確認しただけという見方もできたものの、ドルにとってはやはり、下支えから押し上げ要因、ランドを含む新興市場通貨全般にとっては下振れ要因と言えただろう。

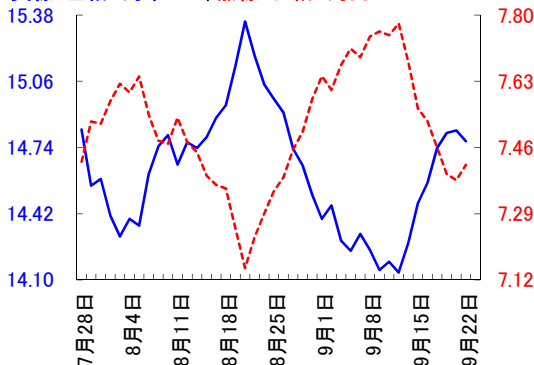
＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/23		南ア準備銀レボ金利			3.50%	3.50%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

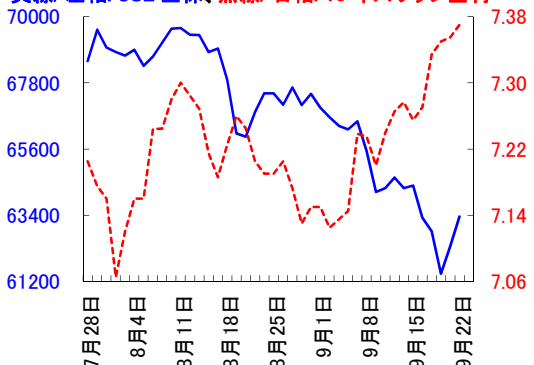
為替相場の推移 (資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移 (資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10年スワップ)	9月22日	7.370%
株価指数(JSE 全株)	9月22日	63353.05
成長率(GDP/前年比)	Q2	+19.3%
経常収支(ZAR)	Q2	+343bn
失業率	Q2	34.4%
消費者物価(前年比)	8月	+4.9%
小売売上高(前年比)	7月	-0.8%
製造業生産(前年比)	7月	-4.1%
鉱業生産(前年比)	7月	+10.3%
貿易収支(ZAR)	7月	+37.0bn
金価格(ロンドン 17:00)	9月22日	1778.03

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。